

説明会時の質疑応答内容（令和4年5月～8月）

【説明会等の状況】

- ・中学校区を参集範囲とし、矢部、清和、蘇陽の各地区において説明会を開催しました。
- ・各保育園、小学校、中学校に、それぞれ日程調整を依頼し、それぞれからの申し出に応じ個別に説明を行いました。
- ・調整できなかった保育園、小学校、中学校には説明資料等を配布し、アンケートを徴しました。

【質疑応答内容】

- ・以下は、保育園、小学校、中学校及び矢部、清和、蘇陽地区のそれぞれにおける説明会での質疑応答概要です。
- ・記録漏れ等は、ご了承ください。

保育園

	質問内容	返答内容
1	保護者から2名、準備委員会の委員にということだが、5年間ずっと務める必要があるのか。	継続が理想ですが、それぞれ事情があるかと思しますので、交代もやむを得ないと思います。保護者会の意向にお任せしますが、引継ぎを適切に行っていただければと考えます。
2	保育園の移転は無いのか。園舎の機能性が悪く、駐車場の位置も悪い。この施設環境を敬遠する保護者もいる。	教育委員会としては、義務教育学校を地域における教育拠点としたい意向があります。現時点で、園舎の移転の話は聞いていませんが、可能性があれば理想的ではあります。担当課にも話を繋いでおきます。
3	矢部地区の義務教育学校は、だいぶ先の話になると思うが、その前に、既存の小学校の統合は無いのか。	資料に出てくる学校規模最適化検討委員会の前に統合検討委員会を設置していますが、現在の単独校それぞれの統合方針は出ていません。最適化検討委員会においても、義務教育学校以外の具体的な統合の話はあっていません。保護者や地域等からの要望や申し出がなされた場合は、教育委員会において検討します。
4	制服はどうなるのか。	現段階では未定です。準備委員会の中での検討事項になろうかと思します。
5	義務教育学校のデメリットは。	現在の学校にも当てはまりますが、人間関係の固定化です。小規模校特有の問題ですが、義務教育学校においては、関わる教職員が増えるので、その対応面に期待するところです。
6	義務教育学校について、都市部等、子どもの数が多いところにメリットはあるのか。	学校規模と配置される教職員数から考えると、単学級の小規模校が最も恩恵があると考えられています。
7	小中一貫校との違いは。	小学校と中学校の小中一貫教育は、当然に連携はあると思いますが、それぞれの校長の学校経営方針のもと運営されますし、義務教育学校での特徴の一つ「中学校の専科教諭による小学校の授業への携わり」に関して、所定の事務手続きを要する等、シームレスとは言えない環境です。
8	部活動はどうなるのか。	7～9年生の部活に、5・6年生が体験で加わるという実例はあります。ただし、国において、中学校の部活の見直しが検討されており、今後、社会体育等への移行が想定されます。
9	既存の校舎はどうするのか。	活用したいところですが、築年数を経過しているため、利用に際しては大規模な改修が必要になるものと予想します。また、解体するにしても経費を要するため、計画的に進める必要があります。なお、準備委員会の中でも検討いただく予定です。
10	1年生（7歳）と9年生（15歳）とで年が離れすぎているのが心配。休み時間等、一緒に遊ぶ際が心配。	視察研修の際に伺っていますが、行事ごとを除き、高学年の生徒が低学年と遊ぶ時間的余裕は無いようだとのことです。その他、直接の関わりではありませんが、通常、小学校では聞かない話として、低学年の児童が高学年の進路に係る行事等について関心を持つ等の様子も見られるそうです。
11	矢部地区の義務教育学校の設置場所は。	現時点では未定です。
12	先生の配置はどうなるのか。	小学校の学年（1～6年）、中学校の学年（7～9年）のそれぞれの学級数に応じた通常の職員数が配置されます。通常、校長1人、副校長1人、教頭2人、その他、事務職員2人、養護教諭2人等が配置されます。
13	視察研修先の義務教育学校で、人間関係の問題事案は無かったか。	視察先でそのような話は聞いていません。それぞれ努力され、多くの職員目で、児童生徒に接しておられるものと察します。
14	小学校の卒業式はあるのか。	小学校の卒業式はありません。中学校の入学式もありません。事例として、6年生の修了時に、修了証書等を渡したりする事もあるようですが、本町の義務教育学校でどのような形とするかは、今後、学校運営に係る協議の中で調整されます。

小学校、中学校

	質問内容	返答内容
1	令和9年度開設ということだが、学校の状況を考えると1年でも早く整備を。	計画的に取り組んでまいりますので、ご協力をお願いします。
2	9月設置予定の準備委員会の任期は。	できれば5年間継続でお願いしたいところですが、それぞれ事情があらうかと思しますので、PTAの意向にお任せします。
3	先進地視察をしたとあるが、どこか。	産山学園、高森東学園、西郷義務教育学校（宮崎県美郷町）です。
4	教科の専門等バランスの取れた教職員を配置とあるが。	通常、小学校は担任制、中学校は教科担当制ですが、義務教育学校では、中学校（7～9年生）の教科担当が小学校（1～6年生）のクラスで授業することが可能になります。視察先では、9年間を見通した指導を行うことで、授業にも余裕が生まれたとお聞きしたところです。
5	教員の確保は大丈夫なのか。	小中両方の教員免許が基本となりますが、教員不足の中、両方の免許状所有者を確保するのは困難かと思われます。義務教育学校ということで配慮いただけるかとは思いますが、あくまで教員の配置は県教委の采配となるところです。
6	特別支援の体制はどうなる。	特別支援学級を設置する場合、教職員が配置されますが、本町では、町費の職員（会計年度任用職員）を、教諭補助として加配しています。
7	建築等はどうするのか。	現時点において、新築・改築等は未定です。基本構想・基本計画で概要を詰めていく形となります。
8	施設整備はどうするのか。	現時点で、場所も規模も白紙状態です。基本構想・基本計画で協議していくこととなります。
9	準備委員会の委員の構成は。保育園の保護者等、若年世代を。	大川保育園でも説明を行っていますが、その際、大川保育園の保護者からの委員選出をお願いしています。

矢部、清和、蘇陽地区説明会

	質問内容	返答内容
1	方針1において現在の学校運営において、まともに対策ができていないケースがある。 義務教育学校における教員の配置について、町から県教委に意見を出すことが可能か。 学校の形を変えたところで同じこと。 理想的な先生は集まらないのでは。 中学校の先生が小学生に教えて大丈夫なのか。	義務教育学校になれば、全て解決する訳ではありません。 人材の確保は、全国で危機的状況ですが、意思をもってなられた先生方ですので、期待するところです。学力、心身、身体の充実を目指します。 現時点で諸課題の想定は難しいところです。 教職員のバランスですが、管理職も多数、養護教諭や事務職員も複数となり、他の教員にも余裕が生まれるプラスの面を期待するところで、子どもに寄り添う事が増えることを期待しています。 義務教育学校は小中両方の教員免許を所持しているのが原則ですが、教員不足の現状からしますと、小中両方の免許を持った先生が完全に配置されることはないと思います。1～6年生における専門的な教科に際し、7～9年生の教科担当に取り組んでいただくことにならうかと思います。 教職員の配置は、先生方の意見を聞いたうえで、県の教育方針に最適であるとして全県下（熊本市を除く）に配置されますが、100%完全にはならないのが実情です。 チームとしての学校教員団に期待するところです。
2	町内小中学校の就学先の選択幅を拡大とあるが、通学手段をどう考えているのか。方針を出すのであれば、どのように対応するか明確にしておくべきではないか。	コミュニティバス路線での対応を基本としています。路線が無い場合は、保護者と共に検討する必要があります。
3	路線間のサポートにタクシーを使うのはどうか。	ご意見として承ります。
	方針の町HP公開が遅く、説明会の案内も防災無線と広報のみで、知らない人もいます。あらゆる手段を通じて。	今後も、手段を尽くして、周知徹底に努めます。
	学校を建設する際の予算は。	あくまで概算ですが、他自治体の例を見ると、少なくとも数十億はかかるものと予想するところです。
	整備には何年もかかるが、当初の方針等が、後年度まで徹底されるよう引継ぎされていくのか心配だ。 準備委員会の人選はどのようにするのか。	引継ぎは基本ですので、徹底していかなければなりません。 清和地区の保小中保護者、小中学校校長等、地域住民、矢部・蘇陽地区において関心のある方等を選定予定です。
4	清和地区の次の地区の整備時期は。	現時点において、未定です。時点修正をしながら調整していくことにならうかと考えます。

5	子どもが安心して学校で過ごせる環境が必要。	同感です。
	不登校、LGBT、差別等、地域の古い考え方との線引きという、そういう視点も持ってほしい。	校長の指揮のもと、学校を運営していただく形となります。
	魅力ある学校を作り、信頼が得られれば子どもの流入が増えるかもしれない。	ご助言として承ります。魅力ある学校づくりは、同感です。子育て中の親の繋がり、学校と地域との繋がりが、魅力ある学校づくりにつながっていくものと思うところです。
6	形のうえでの話がほとんど。子ども達がどう考えているか知りたい。子どもの意見を取り入れて欲しい。中学生への圧迫感、子ども達の感覚、その辺、子ども達がどう思うのか気になる。	具体的な運営調整はこれからの協議となります。子どもに、義務教育学校はどうかと尋ねても答えるのは難しい気がしますが、子ども議会等の機会を通じての意見を期待するところです。その他、検討事項に応じて子ども達の意見を聞く機会があると思います。
	インクルーシブ教育は考慮されているのか。	現在も、課題と捉え、各学校で取り組んでいただいています。
7	先生方の負担が気になる。町が提携して、プログラミング等に関し、民間からの派遣等は考えられないか。	支援の形で入っていただくことは可能です。学校教育の狙いと合致すれば受入れ可能だと考えます。
	複合施設としての考えは。	拠点施設となるのが理想です。
	補助金は。	財源として、国の補助金と起債（借金）が主になると思います。また、視野を広くして他の補助メニュー等がないか探っていきます。
8	校則や制服はどうなるのか。自由なところでやってもらいたい。ワールドスタンダードとして型に収まるのではなく、広い視野をもって。	今後の検討になります。 スマホの問題等を含め、家庭での問題の解決を学校に求められるような風潮もあり、全て自由なという方向性は疑問に思います。
	適正化検討委員会における学識経験者の人選理由を教えてください。	教員養成の指導の他、県社会教育委員や調査研究等を通して県内教育事情に明るく、統廃合やいじめ調査委員会等県内での各種委員会代表を務められてきた経緯等から本町でのこの会議についても適任者として、進行・とりまとめに当たっていただけるものと期待してお願いしました。
10	基本方針を作成するに当たって、現地視察等を行ったのか。	先進地となる、平成30年度の産山学園、以後高森町教育委員会、令和3年度宮崎県西郷義務教育学校を視察して状況把握に努めました。
11	説明が抽象的で分かり辛かった。具体的なメリット、デメリットを教えてください。また、視察したなかで、どう変わるのかという事や子どもへの恩恵を具体的に教えてください。	産山学園では、故郷を誇りに思うアイデンティティを高める「ふるさと学習」、知る、調べる、考えを発信するなど9年間計画的に学習が行われています。
	子ども達にどんな成果があるのか。 視察先の子ども達がどんな姿であったか。	西郷学校では、旧3町村を一つにした学校を検討されたようですが、住民意識等に応じて旧町村ごとに3校の開設となったもようです。職員数は、小・中学校合わせた定数で、児童生徒の指導にあたる体制となります。複数による見守りや指導、専科による専門性の高い9年時の目標を見通した配慮ある指導、研究の充実、校務分掌の分散等、職員の負担軽減、子どもと向き合う時間の増加などを期待するところです。
12	令和9年度清和義務教育学校の次の、矢部地区、蘇陽地区開設に向けた今後の計画はあるか。	まずは、清和義務教育学校の開設に向けて準備を進めており、その後の計画は未定です。
13	説明会の機会は。	スポット説明として、保育園や各小中学校等の要請に基づきPTA等への説明を行いました。全町的には、各地域1回ずつ説明を行いました。
14	「小・中学校」と「義務教育学校」の違いは。	9年間を見通した一貫性のある指導には、同一場所で多数の職員による指導がより効果的に展開できると考えます。 老朽化した校舎や給食設備の更新等でも小・中個別の対応よりも、義務教育学校の方が優位だと考えます。 小・中学校が別の学校では（併設の場合を含む）、相互の指導に移動時間等も含めて困難があります。現在、本町のALTは学校間を行き来していますが、朝から夕方まで移動することなく同一校内で子どもと関わる機会が増え、授業時間だけでなく休み時間や給食、掃除等の機会を通して、より多くの外国文化に触れる等の効果が期待できます。
15	先進校での義務教育学校の良さは何か。	例えば水泳指導では、中学校教員免許を持った専門職員が9年時を見通して小学生時に必要な指導に効果的に当たることができます。 また、小学生が9年生の進路や受験等に関心を持つなど小学校生活だけでは気づかないような刺激があり、自らの進路についても関心や目標を持つことにつながる可能性があります。 ふるさとに誇りを持つ、生きる力の源となる学習等に計画的に取り組むことができると考えます。 専門性や系統性の強い教科の指導に専科として当たることは学びの充実につながります。近年、英語、体育、算数や国語等の専科による指導の拡大が国の方針にも示されていますが、本町は、散在する小学校の掛け持ちでの英語専科を配置する等の計画ができない状態です。

16	パンフレットでは義務教育学校の良さについて一般論で述べてある。	パンフではメリット・デメリットを対比的に紹介する等して、義務教育学校の良さを理解していただけるよう意図して作成したところです。 清和地区では、保育園、小中学校、保護者、関係機関が連携して「清和っ子育成会議」が組織されており、既に義務教育学校やコミュニティスクールが充実する素地があります。 複合施設となり、地域住民の拠点となることや、子育て世代のワンストップ施設として整備が進むことで、都会にはない魅力ある子育て環境が整うことを期待しています。保育園や学童クラブ、生涯学習施設、体育館等の共用も経費を要し、管轄外となる施設もあるものの住民の視点で整備が進むよう取組めればと考えています。
17	少子化が進むことへの対応策は何かあるか。	市内や近隣町村の経済性を価値とした利便さに負けない住みやすさを作り出して、定住や転入者を少しでも増やすことが少子化にも貢献できるのではないかと思います。無策では自然淘汰を待つだけとなりかねません。現時点での最善の計画として、整備の緊急性があり今後のモデルとなる清和地区での義務教育学校の開設を目指します。
18	「自由度」とあるが具体例は。	「産山学」等、生きる力の育成につながる、各学年に応じた特色ある教育計画を実施することができます。6年生での卒業式にかかる練習等の時間が、節目の指導の時間のみでよくなり、中1ギャップに備える指導の時間も不要になると思われます。これらの事等から子どもと向き合う時間が現在より確保できるかと考えるところです。
19	「専門性を活かした教育指導」とは。	1～6年生時に、専門性や系統性の強い教科である、英語、体育、算数や国語等の指導に7～9年生の教科担当者が専科として当たることが可能となります。
20	山都町ならではの計画はあるのか。	今後、計画を立てていくこととなります。
21	「新しい学校」の例もある・・・。	映画や講演会等を通じて少しは関心を持ち承知していますが、今後も機会を捉えて学びたいと思います。
22	特色ある学校になることで、教育移住という形で、人口増にもつながるのではないかと。特色を盛り込んで欲しい。	学校運営に関しては、今後の協議事項となります。
23	「義務教育学校では9年間一人の校長の下」校長次第で弊害もあるのではないかと。	教育計画等が9年間計画的に展開されることを期待していますが、現在も校長は1年～3年程度で交代しています。知徳体の校訓や教育理念は普遍の部分があります。その時点での校長の経営方針によりアプローチの仕方や重点的な取組事項が変わることになると思います。 産山学園では、副校長、教頭2名と管理職は4名体制です。その他、事務職員や養護教諭も2名体制となる等、子どもたちにとっても相談等し易い環境が整うのではないかと思います。
24	「デメリット」欄に「辛い思い」とあるが、辛い思いをした子どもは置き去りにしたままか。	清和を例にすると現在も小学校から中学校へ進学する場合も子どもの顔ぶれや人間関係が変わらないのは事実です。デメリットを強いて上げればということで紹介していますが、続く文章で、解決できる方策を示しています。義務教育学校の有無には関わりなく不登校傾向の子どもたちが年々増加してきています。置き去りにしないように今の学校でも最大の取組みが行われています。義務教育学校では多数の職員による関わりにより、よりきめ細かな見守りや対応ができるものと期待しています。
25	小中一貫校と義務教育学校の違いは。	義務教育学校は、一人の校長の学校経営方針の下で多くの職員が関わり、9年間の学びを見通して計画的に教育活動を行います。 小中一貫校は、教育目標や学習の仕方など共通目標を定めて共通実践することで一貫した学びを提供しようとする取り組みののだと考えます。中学校教諭が小学校に乗り入れて指導にあたるなどする場合、学校の位置や学級数等により対応できる時数には限りがあり、小学校は小学校の教諭が指導にあたられると思われれます。中1ギャップの解消等には指導者の交流を通して指導方法の工夫改善等に活かされているものと思います。 県内では、球磨村、水上村、山江村、熊本市天明地区で義務教育学校の開設準備が進められていることが報道されています。

26	義務教育学校では、9年間縛られるのでは。小中学校別に独自性を出した方が良いのではないか。	清和地区では、単学級であり現在もクラス替え等の可能性はありません。義務教育学校となり、多人数の職員による9年間の見守りやきめ細かな指導により学びや学校生活の充実につながるものと期待しています。清和っ子育成会議を中心に学校、保護者、地域、関係機関等が連携した取り組みが進められており、今後のコミュニティスクールの導入等によりさらに子どもの学びの支援体制が充実するものと思われます。
27	学校開設に向けた説明に今後も努めて欲しい。	広報やまことや町HP等を通じて周知していきます。
28	少子化、老朽化への対応策だとは思いますが、統廃合の度に子ども達が学校に行けなくなった。また、統廃合で地域が廃れる。地域に根ざした学校であって欲しい。	確たる打開策は無いと思います。やまと教室やケース会議等を通じて、一生懸命に当たっていただいています。義務教育学校になれば不登校が減るということではありませんが、関わる教員や、教員の子ども達に向き合う時間が増えることを期待しています。
29	学校に行けない子どもが増えている。改善につながる新しい義務教育学校となって欲しいが計画はあるのか。	山都町の特色である自然豊かな環境で魅力ある学校になるようにすれば、定住者も増えるのではないかと思うところです。
30	9年間関わる・・・。地域の教育力を高めるような取組を。	学校運営には、地域の方々の関わりが重要です。今後も、活動等の活性化が図られるよう、情報提供等を含め取り組んでいきます。
31	いじめ不登校等を見逃さない、解決や相談できる力を。	現在も学校では最善策をとってもらっています。やまと教室でも学校への登校再開に向けて学校や保護者と連携して熱心に取り組んでいます。学校からの月例報告、やまと教室の報告書や担当者との面談等により状況把握に当たっているところです。
32	不登校となっている。現在の学校のデメリットも把握して改善に向けた対策を取って欲しい。学校生活になじめず不登校となりオルタナブルフリースクールに通っている。	長期休みとなった子ども達の状況は様々で複雑でもあります。学級や学校の間関係が理由と考えられ他校での登校で改善が期待できる場合は転校措置を行った例もあります。学校が変わって元気に登校を再開した例もありますが、転校で改善しない例もあります。
33	全町的視野に立って計画を進めて欲しい。考え行動する子どもの育成を。よりよいものを、見通しを持って進めて欲しい。 複式学級支援員が担任として関わるができるような任用を。今できる対応策を進めて欲しい。	今後改善に向けた検討事項とします。
	蘇陽地区の小学校を統合するとか、清和中・蘇陽中を統合する等、同時並行でいかないといけないと思う。その方針を出して欲しい。	現状を踏まえ将来を見据えたうえで、矢部、清和、蘇陽の各地区に義務教育学校を設置する方針を出したところです。
34	説明会や公聴会を行って欲しい。 アンケートの回答等はどのような形で対応するのか。	基本方針に関する説明は、今行っている説明の機会で終わりとなります。説明会でのやり取りやアンケートの質問等への回答等については、何らかの形でお返しします。